

多文化共生保育所(園)を訪問する中でみえてきたこと



～ 今 保育に携わる者として わたしたちができること ～



人がひととしてできること～心とこころのつながり～

【健康の砦としての保育所(園)】

外国籍の子どもの家庭において、さまざまな理由により予防接種や健診は受けにくいものであるという声を聞きました。中には、園医がこまめに母子手帳のチェックをしたり、看護師が子どもの健康状態に気を配ったりして、すぐに健康相談に応じる保育所(園)もあります。しかし、1日の大半を子どもと接しているのは私たちであり、子どもの送迎時に保護者と顔を合わせる機会も多くあります。そこで私たちは、子どもや保護者の表情や様子を直接感じとることができ、子どもの顔色や体調を気遣い、食事や睡眠などに気を配り保護者に声をかけています。私たちは、子どもの健康を守る大切な役割を担っているということ、誇りに思い自覚するとともに、子どもや保護者に寄り添っていきたいと思います。

【すべての人が安心できる保育所(園)】

いくつかの保育所(園)を訪問する中、通訳が声をかけることで子どもや保護者の表情が変わる姿を見ました。母語でコミュニケーションを取れる相手がいることが大きな安心となっているのです。しかし、通訳がいるという保育所(園)はほんの一部で、何とかして子どもや保護者に寄り添い、理解しようと努力している保育所(園)がほとんどだと思います。解りやすく話をしたり、表示をつくるなどの工夫をし、いつでも相手の立場になってかわること、この子とつながりたい、この保護者とつながりたいという気持ちでかわることできっとその思いは伝わり、安心して過ごす環境が作れるのだと思います。そして、この外国籍の子どもに対して行っている取り組みは、それだけにとどまらず、全ての人生活しやすい保育所(園)につながります。相手に寄り添いたいという思いでかわること心をつなげ、誰もが安心して通うことのできる保育所(園)をめざしたいと思います。

見ようとしないと見えないこと

【たくさんの人の目と心で、子どもたちに輝きを】

外国などさまざまなルーツを持つ子どもや保護者の文化を保育に取り入れていくときには、かたち(フード、ファッション、フェスティバル)だけに捉われない本質的な意識の確認、めざす姿の共通の話し合いがなされていくことが大切です。

そして、子どもとの生活を作りだしていく中で『何がねらいなのか?』『何を育てたいのか?』を職員間で繰り返し話し合い、共通の意識で進めていくことも大切だと思います。

一人一人の子どもを丁寧にみていくことで、その子への決め付けに気づかれ、保育を振り返るきっかけになります。そして、知ろうとする思いが保育に携わるすべての仲間へ広がることで、子どもたちを肯定的に見ることや、ありのままを受け入れることにつながると思います。保育に携わるすべての人で考えていくことこそが、子どもの心を育て、保育をよりよいものにしていくのだと思います。

まとめ

今回、いくつかの保育所(園)を訪問する中でみえてきたことがたくさんありました。そして、それは結果として、多文化共生にとどまらず、すべての保育に共通していえる大切なことではないかと考えます。

私たちが、保育でこだわって考えていくべきことを確認し合い、一緒に考えるきっかけに、このリーフレットをご活用いただくと嬉しく思います。

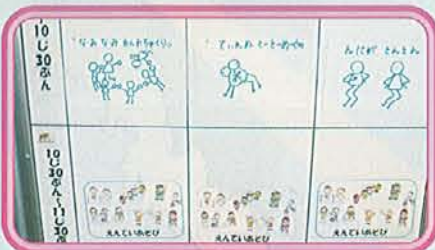
【違いを豊かさと感じ、互いを大切に】

共生の保育では、外国などさまざまなルーツを持つ子どもや保護者が、安心してつながっていくために、周りにいる私たちが自分自身の意識の問題として、考えていくことが必要だと思います。違いを困ったこととして捉え、排除する意識ではなく、違いを豊かさと感じ、互いを大事にして、どう生活をつくりだすかを丁寧に考えていきたいと思えます。

常にアンテナを張り、いろいろな情報をキャッチしていけるように、自分磨きをしていくことが大切だと思います。

めぐみ保育園

社会福祉法人大阪キリスト教社会館



- ・子どもが将来、沖縄のことや故郷を誇りに思う力をつけたいと願い、沖縄の文化や、伝統行事を保育に取り入れている。
- ・職員が沖縄へ研修に行き、沖縄への理解を深めている。

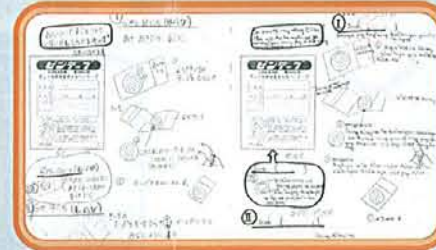
大阪聖和保育園

社会福祉法人聖和協働福祉会



- ・多言語が使用される環境(保育室の名前、朝の挨拶、韓国・朝鮮にルーツをもつ保育士等)が整えられている。
- ・子どもたちが、自分のルーツに誇りを持ち、互いにつながることを大切にしたい取り組みをしている。

松阪市立若草保育園



- ・通訳がいることで、タガログ語を話す子が、「自分の言葉が話していいんだ」と思え、自尊感情の育成につながっている。
- ・園医が母子手帳のチェックをしたり、通訳が健診や予防接種の相談にのっている。

曙保育園

社会福祉法人伊賀市社会事業協会



- ・保護者同士の自然な交流と横のつながりを重視(22年度は、外国籍児の保護者が保護者会役員として2名選出された)。
- ・言葉が通じることに満足せず、その子の存在そのものを認め、受け入れることを大切にしている。

鈴鹿市立玉垣保育所



- ・外国籍児加配を設け、細やかな声かけ等により、子どもや保護者の困り感を解消している。
- ・子どもだけでなく、保護者にも外国の文化を伝え、互いの違いを認め合えるようにしている。

前回のリーフレットを読んだみなさんから、意見や感想をいただきました。リーフレットは、多文化共生をはじめ知ったという方も分かりやすく、また話し合いのきっかけに活用していただけたようです。ありがとうございました。

言葉や文化などの違いで取り組みや工夫は多岐に及びます。しかし多文化共生保育は、外国などさまざまな



ルーツを持つ子どものためだけではなく、すべての子どもがその子らしさを大切にできる保育なのだという、意識の見直しが意見や感想に表れていました。自分のこととしてとらえ、考えていくことが人権保育をすすめる大きな一歩となります。これからもみなさんと取り組みや意見の交流をしていきましょう。

多文化共生による人権の問題が良く分かった。
(中略) 同じ目線で考えていくことが大切だと感じた。

違いを認め合い、尊重しあう心を育てることが保育の基礎になると思う。

日本語が話せて当たり前だと思っていましたが、考えるいいきっかけになりました。

一緒にいる子たちに、その子たちの国のことを知っていくような取り組みができていたか考えるきっかけになりました。

一人として

今年度の取り組みを通して見えてきたことは、外国籍、多文化を生きる子どもの保育の問題は、単にコミュニケーションの問題だけではないということです。共生として重要なのは、国籍、文化、またはルーツが異なる子どもの存在をそのまま受け入れていくことです。日本に暮らす以上、日本での生活に慣れることは必要です。しかし、日本に同化させることも、することもできません。国籍、文化、ルーツ等異なることを異なることとして受け入れていくことが、その子の存在を受け入れ、外国籍、多文化を理解していくことだと思います。

国籍、文化、ルーツ、そして、性別、個性といった側面に気を配ることが、その子のアイデンティティを大切にすることです。そして、このアイデンティティを理解するためにコミュニケーションの大切さがあります。

一人一人のアイデンティティを大切にすることとは、決して新しいことでも特別なことでもありません。人権を大切にしようとしてきた経験と知識、そして、一人一人の子どもを大切にしようとしてきた経験と知識に裏付けられた実践が、多文化共生保育の中でも活かされようとしているということです。

一人一人のアイデンティティを大切にすることとして大切なことを保育の実践の中心に据え、保育者の専門性をそこから見据えていくことが、これから重要になってくるのではないのでしょうか。

長澤 貴(鈴鹿短期大学)

ホームページのご案内

今後、社団法人三重県人権教育研究協議会のホームページ内でもプロジェクト会議の様子や内容などを掲載していく予定です。

ぜひ、みなさんも三重県人権のホームページをチェックしてみてください! よろしくお祈りします。



ホームページアドレス

<http://www2.ocn.ne.jp/~sandokyo/>

三重県人権保育推進支援事業

2011年3月 発行

三重県健康福祉部こども局こども家庭室



三重県人権保育推進支援事業



今回のプロジェクトでは、前回に続いて多文化共生から人権保育を考える取り組みとして、ことばや文化が違う、多文化の子どもと共に生活している保育所(園)・異なる文化間のつながりに努力している保育所(園)を訪問することから始めました。多文化の子どもたちは、ことばも文化も違い戸惑うことが多くあります。保育士は身振り・手振りや、日本語の単語を並べたり、歌をうたったり、スキンシップやコミュニケーションをとるようにしています。しかし、細かなことを伝えるには限界があり、時には通訳と共に関係を深める努力をしている保育所(園)もあります。

このリーフレットを通して、みなさんと一緒に多文化共生から見えてくる課題を捉え、それらの課題を解決する道筋を実践を通して明らかにし、共生の道へと、さらに考えていけたらと思います。

社会福祉法人大阪キリスト教社会館
めぐみ保育園

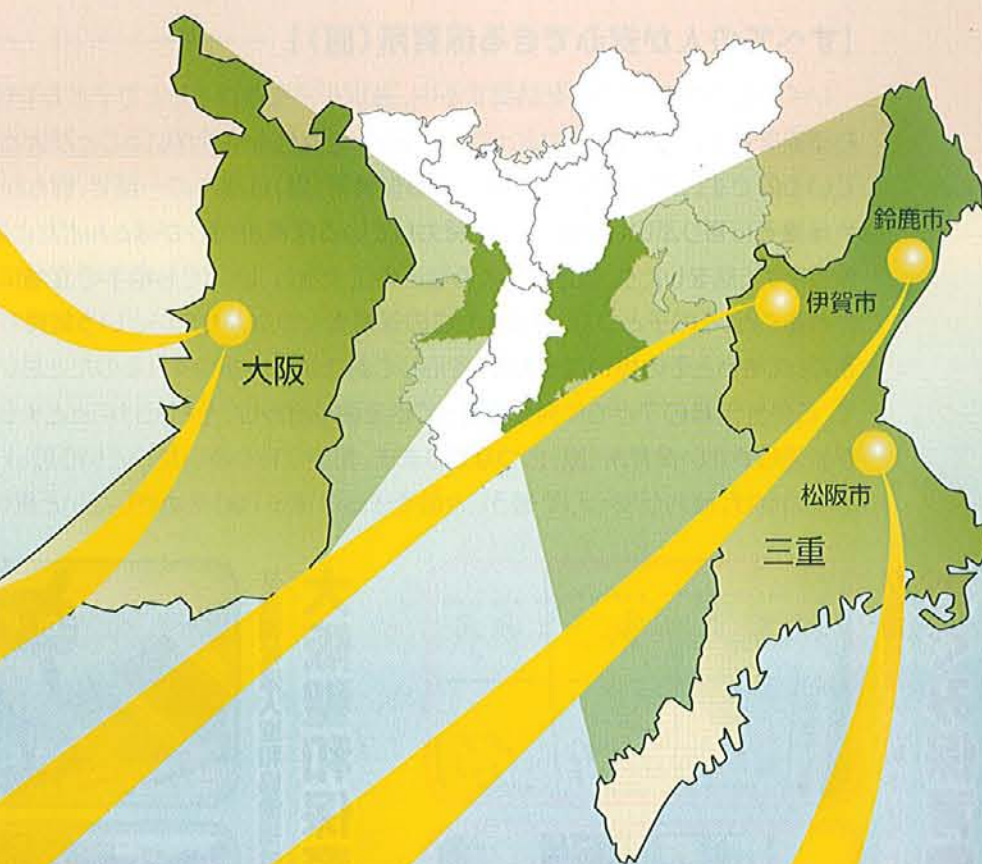
- 沖縄につながる子どもが多く在籍
- 多文化共生を中心に据えた保育を行っている

社会福祉法人聖和協働福祉会
大阪聖和保育園

- 朝鮮半島等につながる子どもが多く在籍
- 日本人と韓国・朝鮮人が共に育ち合うための民族保育を行っている

社会福祉法人伊賀市社会事業協会
曙保育園

- ブラジルにつながる子どもが複数在籍
- 通訳はいないが、一人一人を大切にしたい取り組みを行っている



鈴鹿市立玉垣保育所

- ブラジルとペルーにつながる子どもが複数在籍
- 鈴鹿市の嘱託職員・緊急雇用の通訳(ポルトガル語・スペイン語)が巡回

松阪市立若草保育園

- フィリピン、中国、インドネシアにつながる子どもが複数在籍
- フィリピン(タガログ)語の通訳が常駐